



限りある資源と豊かな自然環境を守っていくために、環境への負荷の少ない循環型社会を目指し、引き続きごみを減らしていくことが大切です。

【お知らせ】

全世帯に配布している「川越市民のしおり2023年版」の「ごみ・環境」ページにおいて、家庭ごみの分け方・出し方を掲載しています。今後については、このしおりをお手元に保管し、ごみの分別等の参考にしてください。なお、令和6年度家庭ごみ収集日程表は、来年発行の広報川越3月号に折り込み予定です。スマートフォン向け川越市ごみ分別アプリもご利用ください。



収集日程表



ごみ分別アプリ

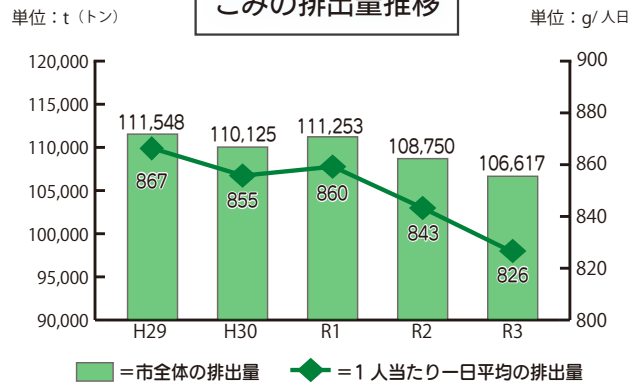
ごみ処理の現状

令和3年度に市内から排出されたごみの総排出量は、10万6,617t（トン）でした。同2年度と比較すると2,133tの減少でした。

また、1人1日あたりに換算すると、平均826g。同2年度と比較すると17gの減少でした。

ごみの排出元別で見ると、家庭からのごみは8万2,682tで、前年度と比較すると2,399t減少しました。また事業者から出されたごみの量は、2万3,935tで、前年度と比較すると266t増加しました。

ごみの排出量推移



ごみ処理の経費

* 国が定めた一般廃棄物会計基準により算出

令和3年度のごみ処理経費は、施設の維持管理費等の増加により約60億4,711万円で、同2年度と比較すると3億433万円増額となっています。ごみ処理にかかる経費は、ごみの収集に関する収集部門、焼却処理等に関する中間処理部門、埋め立て処分に関する最終処分部門、リサイクルに関する資源化部門、管理部門で使われています。

部門別で前年度と比較すると、最もかかっている中間処理部門は約3億3,185万円の増、収集部門は約4,400万円減、資源化部門は約3,417万円増、管理部門は約24万円減、最終処分部門は約1,744万円減となっています。

こうしたごみ処理に要する経費は、1日あたりに換算すると、約1,657万円、**市民1人が年間約1万7,000円を負担していることとなります。**

ごみ処理経費の内訳(令和3年度)

【管理部門】 1億6,927万円

ごみ処理を円滑に行うための管理経費など

【資源化部門】 6億5,138万円

リサイクル施設などの人件費、業務委託費など

【収集部門】 17億117万円

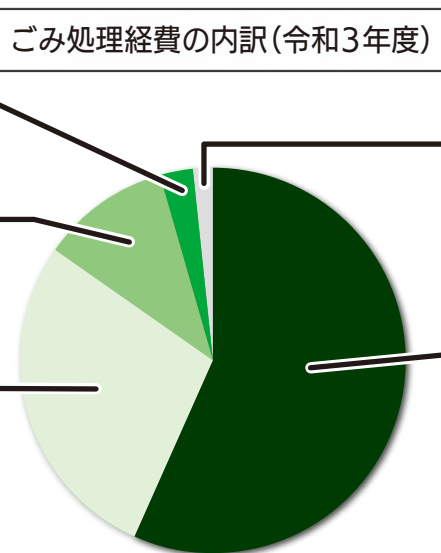
集積所から、ごみを収集するための人件費、収集委託費、車両の購入費など

【最終処分部門】 9,775万円

小町の里クリーンセンターの人件費、維持補修費、委託費など

【中間処理部門】 34億2,754万円

資源化センター、東清掃センターの人件費、施設の維持補修費など



ごみの減量化の推進



市では、循環型社会の構築を目指すため、令和4年3月に、川越市一般廃棄物処理基本計画『ごみ処理基本計画』編の見直しを行いました。ごみの発生・排出抑制をはじめとした各種施策に取り組むとともに、環境負荷の低減に配慮した施策を推進していきます。同計画では、中間目標年度の令和8年度までに1人1日当たりのごみ排出量を821g以下、リサイクル率を24.8%以上にすることを目標としています。

この機会に、家庭で、ごみの減量化に向けた取り組みを実践してみませんか。ご協力をよろしくお願いいたします。

注意

リチウムイオン電池を含む製品(充電式電池)が廃棄物となった場合、収集運搬や処分の際に強い衝撃が加わると発火する危険性がありますので、適正な分別と廃棄にご協力をお願いします。



ごみの減量に向けて



●環境プラザ(つばさ館)

つばさ館は、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進するための環境啓発・体験学習・交流活動等の拠点となる施設です。廃棄物に関わる環境学習機能として、情報展示ホール、リサイクル体験工房、情報資料コーナーを設置しています。また、リサイクル家具・リサイクル自転車・リユース品(衣類等)の頒布を行っています。

●雑がみの分別

可燃ごみ中に含まれる紙類の割合は約4割となっています。これら紙類を適切に分別すれば、ごみの減量化やリサイクル率の向上につながります。

お菓子や玩具の空き箱、包装紙などの雑がみも大切な紙資源です。新たな紙へとリサイクルするため、雑がみを分別しましょう。

●布類の分別

不要になった、洋服やタオル、毛布は、布類の日に出しましょう。布類は、つばさ館でも常時回収しています。出す時は、袋に入れてください。

雨が降っている場合には、次回以降の収集日に出すようご協力ください。

●生ごみの水切り

生ごみの約8割は水分です。生ごみの水きりをするだけで、ごみの減量やごみ出し時の負担軽減、においの防止にもつながります。

生ごみの水切りにおいては、「ぬらさない」「しぼる」「乾かす」が大切です。

10月は食品ロス削減月間 ～身近なところから始めるSDGs～



日本では、年間523万t(令和3年度推計値)もの食品ロスが発生しています。食品ロスを削減するためには、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ購買行動「てまえどり」が大切です。

フードドライブにご協力ください

家庭で余っている長期保存ができる食品を回収し、食生活を必要としている団体等へ寄付する活動「フードドライブ」を実施します。

日時…10月2日(月)～11月30日(木)午前9時～午後4時30分(土・日曜日・祝日を除く)

受付場所…つばさ館、生活福祉課(本庁舎1階)、こども家庭課(本庁舎3階)、環境政策課(本庁舎5階)

*10月1日(日)開催の～川越から地球を元気に～「SDGsアクションフェスタ2023」、11月19日(日)開催の「つばさ館まつり」でも、フードドライブを実施します。

SDGsの理解を深めよう

国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、17のゴールと169のターゲットから構成され、誰一人取り残さない、包摂的な世界の実現を目指すことを理念に掲げています。ゴール12「つくる責任つかう責任」では、「食品ロスの削減」について、ターゲットが設定されています。

埼玉版SDGs推進アプリ「S³(エスキューブ)」

埼玉県では、SDGsを勉強したい、理解を深めたい方向けに、アプリを無料で提供しています。



- 動画やテキスト・クイズなどでSDGsを楽しく理解できます
- SDGsに貢献する行動に応じてポイントをゲット
- 貯めたポイントでくじにチャレンジすると、素敵な賞品が当たります